

久留米

通高
信専

第65号

[DECEMBER 24, 2010]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

公私の"公"と公私の"私"

説明するまでもなく、公私とは「おおやけ事とわたくし事。公共や公務に関することと私的なこと。」(大辞林)である。

北見けんいち氏の漫画「釣りバカ日誌」で、釣好きの主人公ハマちゃんが、勤務先である建設会社の上司から、公私のけじめをつけるように注意されたり、逆に上司を諷めたりする場面が登場する。(単行本第4巻第2話「公私の"私"」、第4話「公私の"公"」など)

現実の企業においても、例えば化粧品など様々な分野で事業を展開している花王株式会社では、「公私のけじめをつける」ことを企業行動指針の一つに明確に掲げている。

公私のけじめは、仕事関係のみならず社会生活の中でも重要である。近年では、通勤電車やバスの中で、パンや弁当を食べたり、若い女性が人目をはばからず化粧をしたりする風景は珍しいことではなくなった。この程度のことであれば個々人のマナーの問題として済んでしまうが、会社の物品を私的に使用すれば刑法の横領罪(第252条)にあたることは知っておく方がよい。

ややもすると合理性を追求するあまり社会のフレームを見失いがちになる。せっかくあるのだから活用しないともったいないとか、空いている場所で他人に迷惑をかけなければ自由に使っても良いではないかという論理は、常に通用するとは限らないということを理解しておくことは重要である。

私が学生のとき、伝統の大学対抗の野球試合が一日延長になり、休講の掲示は無かったものの、殆どの学生が自主休講を決め込んでいる中で、万一授業があった場合に備え、私は開始時刻まで教室で待つことにした。広い教室内は、他には授業に関係が無く、空き教室と思ってフォークギターを持ち込み、弾き語りの練習をしていた学生2人だけ。授業の始まる時刻になり、教室に入って来られた教授の姿を見て、その教室で授業があることを察知した学生2人は、

講義の邪魔にならないようにと、自ら早々にギターをケースにしまい教室から出て行くべく移動し始めた。普通ならばここでストーリーは終わり、何事もなかったかのように授業が始まるわけであるが、教授はその学生達をわざわざ呼び止め、いくつかの質問の後、「出ていけば良いというわけではない。教室は授業に使うもので、空いているからといって勝手に使って良いものではない。使用するには大学の許可を得る必要があり、無断で使用することはいけないことである」旨をコンコンと説いておられた。当該学生達は、注意される前に退出しようとしていたし、このような些細(?)なことで、何故こんなに説教されなければいけないのかとでも言いたそうな不満げな様子だった。

黙ってそのまま見過ごしていても、特に授業に支障が生じたわけでは無かったものの、学生達を呼び止めてまで注意を与えたあたりは、良いことと悪いこととのけじめをきちんとする、さすがに刑法の教授らしいと大変感心したことが、30年経った今でも鮮やかに記憶に残っている。

学校は公の場であり、学びの場である。ホームルーム教室も長い間使っていると、自分の部屋のような感覚になってくる。学生寮も学校の一部である。寮の部屋はプライベートな空間ではあるが、定められたルールの範囲内で各自の生活は成り立っている。他人に迷惑をかけないからといって、好き勝手にして良い訳ではない。そこは公私の"公"。学校も寮もミニ社会である。社会へ羽ばたいていくための準備期間である学校生活の中で、公私のけじめをつける習慣を身につけていくことが大切である。学生諸君! ゆめゆめ教室にアイドルのポスターなど貼るなかれ!

久留米高専主催でロボコン開催

今年のロボコンは10年に一度の久留米開催で、学生諸君は例年以上に張り切ってロボット製作に励みました。ロボットコンテスト部チームと久し振りに卒業研究チーム（機械工学科・制御情報工学科合同）が出場いたしました。

今年のロボコン部そして来年に向けて

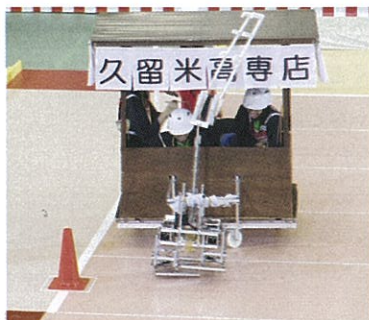
機械工学科 2年
丸山 優介

4月の末にルールが発表され、どんなロボットにするか、みんなでアイデアを出し合いました。アイデアを出しあった後、どのようなロボットにするかモデルを描きました。それからSolid Worksという3次元で設計できるソフト（3次元CAD）を使い設計をしました。モデルを描くのは、一、二週間で済みますが、それから3次元CADを使って設計をすべて終わらせるには相当時間がかかりました。

夏休みになっても設計の全体像が完成しなかったため、設計をしながら製作に取り組みました。部員は去年と違い、多かったので作業はサクサクと終わり設計の方が追いつかないようになりました。みんなはやる気があるのにそのやる気に応えることができない自分に腹が立ちました。少しでも上達しようと思い、家に帰るとほとんどの時間を設計にまわしました。それなりにコツはつかめました。秋になると3次元CADを使って設計をする時間はないので、すべて手書きで済ませました。

ロボコンで大切なのは全体を見据えて考えることです。例えば足の機構（動かし方）は何種類かありますが、そこで選択を間違えるとバランスがとれないロボットや遅いロボットができます。では、そのような選択をしなければいいじゃないかと思いますが、これは経験がないと分かりません。今年は去年と同じ足の機構で挑みました。理由は設計を始めるときにほかの機構のメカニズムがわからなかったのと、去年の機構のどこが悪かったのか、もっと改良すれば成功するのではないかと思ったからです。ロボットを動かしてから悪いところが一目で分かりました。結局選んだ機構が悪かったので、どうする事もできませんでした。

ロボコンをやってみて得られたことは多く、来年に向けて部員一同、新たなスタートを切っています。最後になりましたが、お世話になりました教職員・学生の方々、本当にありがとうございました。



ロボットコンテスト部製作のロボット

卒業研究におけるロボコンを通して

機械工学科 5年
善 隆介、中川 拳太

私たちは今回の卒業研究を通して初めてロボットコンテストに触れることになりました。何もかもが初めての経験で何から取り掛かればいいのか、本当に完成させることができるのかと不安はつきず、数多くの失敗・トラブルおよび仕様変更に見舞われました。しかし、チームの仲間達との試行錯誤、また数多くの先生方・職員方からのサポートのおかげで何とか完成に至ることができました。残念ながら大会自体は悔しい結果に終わってしまいましたが、毎晩遅くまでロボット製作に取り組んだり、納得いくまで、とことん話し合ったりという経験はとても貴重で大切な思い出として残り続けていこうと思います。

しかし結果が残せなかったというのは紛れもない事実で、あと1回やらせてくれという不完全燃焼してしまっている気持ちも残っています。私たち5年生は卒業まであまり長い期間がありませんが、1年生から4年生の方々にはたくさんの時間が残されています。おそらく先生方から何度もいわれているでしょうがその時間を大切に使うと欲しいとダメな先輩からですが言わせてください。最後に、たくさんのアドバイスを授けてくださった先生方、技術面で手厚いサポートをしてくださった技術職員の方々、1つの問題もなく大会開催・運営をしてくださった数多くの教職員・学生の方々、本当にありがとうございました。



卒業研究チーム製作のロボット

プログラミングコンテスト

制御情報工学科 3年
大城 泰平

こんにちは。3年制御情報工学科、プログラミングラボ所属の大城泰平です。

私は昨年の12月から今年の3月にかけて、プログラミングコンテストの一つである情報オリンピックに参加しました。

このコンテストは、高校生を対象とした国際的な科学オリンピックの一つで、情報の他にも数学、物理、化学、生物などの分野があります。

多くの人は情報オリンピックという言葉だけを聞いても、何を競うのか想像し難いとおもいます。情報オリンピックとは、数学的な問題の解を計算するプログラムを作成し、コンピュータに実行させ正答数を競うコンテストです。この情報オリンピックで、私は参加者531名の中から日本代表候補に選出され、東京で一週間の選抜試験を受けてきました。上位4名が選ばれる日本代表は惜しくも逃してしまいましたが、国内6位という成績を残すことが出来ました。

この高校生向けの「情報のコンテスト」は、先述の情報オリンピック以外にも幾つか存在します。例えば、東工大や阪大のスーパーコンピュータを使用することの出来る「SuperCon」や、会津大学が主催している「パソコン甲子園」等があります。前者は今年の8月に行われ本戦出場、後者は今年の11月に参加し、予選4位・本選6位という結果で終わりました。

私が所属しているプログラミングラボは、このようなプログラミングの大会に出場することを主な活動内容としています。私は来年にはもう年齢的に大学生になるので、高校生向けの大会には参加することが出来ません。

私は世界大会には出場することが出来ませんでしたが、プログラミングラボの後輩達に、いつの日か「久留米高専」という名前を、世界に届けに行きたくて願っています。



NazoLabを世界に向けて

制御情報工学科 5年
山下 壱平

皆さんは、ナレッジコミュニティと呼ばれる分類のウェブサイトをご存知でしょうか。

ナレッジコミュニティとは利用者が自分の疑問をサイトに投稿し、その疑問に対して、他の利用者が回答を行う、いわゆるQ&Aサイトと呼ばれるものです。

インターネットが多くの家庭へ普及した今日、その利用者は急増しており、質問される分野も大変幅広いものとなってきています。分野が幅広くなっているにも関わらず、大手のナレッジコミュニティサイトでは、投稿に文字列や画像しか利用できないため、数学に関する質問をしたとき、利用者によって生み出された独自の文法によって複雑な数式を文字列で入力する必要があり、とても難しいものでした。

大手ナレッジコミュニティ利用者である私も、高専生が数学と密に関わることもあってか、入学して以来もどかしさを感じていました。

しかし、高専の学生は今ある物をただ利用するだけでなく、技術者としてより新しいものを作り出す事ができます。

そこで、私たち制御情報工学科5年生の井上、山下、野中、松瀬は、中学校や高校で習う数学で見ると、自然で美しい数式を入力表示できるナレッジコミュニティサイトを開発しました。それが「NazoLab」(なぞらぼ)です。

より多くの方が簡単に利用できるよう、数式を簡単に入力できる機能も開発しました。

NazoLabは、携帯電話iPhoneなどからも閲覧していただく事ができるため、学生に限らず、通勤途中の一般の方々にも数式を用いたQ&Aを見て楽しんで頂いています。

私たちは、このNazoLabの開発を機会に世界中の人々がインターネットを用いて知識を共有し、学校の有無に関わらず誰でも勉強できる環境を開発したいと思っています。

まずは、この記事をご覧いただいた皆様にNazoLabを知っていただける事を願っています。

(<http://nazolab.net/>)



平成22年度 進学状況

平成22年度 大学編入学進学状況等 平成22年12月8日現在

大学名	合格者数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計
豊橋技術科学大学(工学)					1	1
九州大学(工学)			1	1	1	3
九州大学(経済)			2			2
九州工業大学(工学:推)	1		1			2
九州工業大学(情報工学:推)	1					1
佐賀大学(理工)					1	1
熊本大学(工学:推)		2				2
熊本大学(工学)					2	2
大阪大学(基礎工)			1			1
神戸大学(農学)				1		1
東京工業大学(工学)				1		1
東京工業大学(生命理工学)				1		1
東京農工大学(工学)	1			2		3
筑波大学(情報学)			3			3
千葉大学(工学)				1		1
宇都宮大学(工学)				1		1
東北大学(工学)				1		1
新潟大学(工学)	1					1
室蘭工業大学(工学)			1			1
合計	4	2	9	9	5	29
重複者を除く実数	4	2	6	4	4	20

平成22年度 他高専専攻科合格状況

平成22年12月8日現在

学校名	合格者数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計
有明高専専攻科(学)後期	1					1
合計	1	0	0	0	0	1

平成22年度 就職状況

平成22年度(平成23年3月)卒業予定者の就職内定状況

平成22年11月現在 久留米工業高等専門学校

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
三菱重工長崎造船所 北九州エル・エヌ・ジー JFEスチール西日本 日本たばこ産業 長崎キャノン 高田工業所 高杉製薬 オークマ パナソニックエレクトロデバイス マキノジェイ ブリヂストンプラント オーレック ヤンマー建機 三菱重工高砂製作所 トヨタ自動車九州 日野ヒューテック 王子板紙 富士重工業 日本原子力発電 イズミフードマシナリ 三菱重工広島 カシワジ 九州グリコ マキノフライス製作所 富士通 大同技研 東燃化学 第一精工	東芝メディカルシステム トヨタ自動車九州 三興グループ 中部電力 富士通九州システムズ ヤクルト キリンビール福岡工場 九州電力 東洋新薬 関西電力 三井三池製作所 京セラ コカ・コーラウエストプロダクツ 久留米ガス トヨタテクニカルディベロップメント ANAフライトラインテックニクス 東芝E1コントロールシステム 増田造園 シャープ 三菱電機三田製作所 日立メディコ 東京電力	日本たばこ産業 NHKメディアテクノロジー NTTネオメイト 西島 KDDIテクニカルエンジニアリングサービス JRE東海 インフォグラム 大和製罐 東芝ITサービス 西日本プラント工業 三松 NTTデータ セイコーエプソン エヌエフティ	丸東産業 クロレラ工業 東燃化学 住友精化 東洋新薬 味の素 協和酸酵キリン 日本生物製剤 キリンビール福岡工場 第一三共プロファーマ 武田薬品工業 中外製薬工業 明治乳業岡山工場 中外製薬工業 大石膏盛堂 大日精化工業 協和酸酵バイオ 藤井養蜂場	フルヤ金属 ユニチカ 三菱重工高砂研究所 高畑精工 昭栄化学工業 アーレステイ アサホーレシヨ 九州エルビー 高岡波熱練 丸信機械製作所 東伸熱工 日本精工九州 国立印刷局 田中貴金属

平成22年度(平成23年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

平成22年10月現在 久留米工業高等専門学校

機械・電気システム工学専攻	求職者8 男7・女1 内定者6 男6	ネクシス イシモク・コーポレーション 第一精工 高畑精工 和興エンジニアリング 富士通システムソリューションズ
物質工学専攻	求職者8 男6・女2 内定者8 男6・女2	中外製薬工業 旭化成 沢井製薬 宇部興産 アステラス製薬 大日精化工業 日東電工 東燃化学

平成22年度 久留米高専専攻科合格状況

平成22年12月8日現在

学校名	合格者数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計
久留米高専専攻科(推)	4	4	4	4	4	20
久留米高専専攻科(学)前期	3	3	11	9	2	28
久留米高専専攻科(学)後期	0	2	7	0	1	10
合計	7	9	22	13	7	58

平成22年度 専攻科 大学院合格状況

平成22年12月8日現在

大学院名	合格者数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
長岡技術科学大学院(推薦)	1		1
九州大学大学院(総理工:推)	1		1
九州大学大学院(総理工)		5	5
九州大学大学院(システム生命科学:推)	1	1	2
九州大学大学院(統合新領域)	2		2
九州大学大学院(システム情報科学:特別選抜)	1		1
九州大学大学院(システム情報科学)	2		2
九州工業大学大学院(工学)		1	1
名古屋大学大学院(システム情報科学)	1		1
東京工業大学大学院(生命理工学)		3	3
早稲田大学大学院(情報生産システム)	1		1
合計	10	10	20



和泉 直志 (いずみ なおし)
職名 機械工学科 教授
 (平成22年9月1日付)
前職 九州大学大学院工学研究院
 准教授
抱負 ものづくりにより近いところ
 で、機械工作と設計を勉強し
 たいと思っています。
趣味 クラシック音楽鑑賞とその
 ためのオーディオ機器



宮本 久一(みやもと ひさかず)
職名 一般科目(理科系) 教授
 (平成22年9月1日付)
前職 愛媛大学大学院講師
抱負 これまで、20年間大学にお
 いて教育・研究を行ってきました。
 高専での勤務は初めて
 ですが、一所懸命努力してま
 いりますので、何卒よろしく
 お願いします。
趣味 読書・スポーツ



辻 栄紀 (つじ ひでのり)
職名 総務課総務係長
 (平成22年8月1日付)
前職 九州大学総務部人事課
抱負 高専での勤務や総務の仕事は
 初めてですが、早く業務や学
 校のことを把握し、久留米高
 専の一員として精一杯頑張り
 たいと思いますので、どうぞよ
 ろしくお願いいたします。
趣味 テニス・ゴルフ



轟 淳 (とどろき あつし)
職名 学生課教務係員
 (平成22年8月1日付)
前職
抱負 久留米高専の卒業生で、職員
 として高専に戻ってきました。
 懐かしく感じていますが、新
 任者としての初心を忘れるこ
 となく、職員として久留米高
 専の一員になれるよう頑張り
 ます。
趣味 読書や将棋などです。
 空手・古武道もやりました。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
制御情報工学科4年 岡田 一将

今年で45回目となる高専祭も、皆様のご協力のお陰もあり無事に終えることができました。今年のテーマは「文化を食らえ！」でした。当日配布したパンフレット学生の皆様をはじめ、来場者全員にこの高専の文化のひとつであるこの高専祭を食らうかの如く楽しんでいただきたいと願ってこのテーマを付けさせていただきました。実際、この高専での思い出の一つとして皆様の記憶の片隅にでも刻んで頂けるのであれば私も嬉しい限りであります。

今年の日程も例年通り、11月2日に前夜祭、3日に文化祭、そして5日に体育祭の日程で開催させていただきました。どの日もたくさんの方の来場者に恵まれ、非常に盛り上がる祭になったと思います。

2日 前夜祭

昼には神輿が高専を出発し、男たちの力強い掛け声が久留米市に響きました。

夜には美しい花火が上がり、この前夜祭を締めくくると同時に、長い高専祭の始まりを告げる祝砲にもなりました。

3日 文化祭

メインストリートは来場者で埋め尽くされ、ステージイベント、バンド、出店、公開実験と高専生の輝きを見せ付ける場となりました。

この高専の素晴らしい文化である高専祭の運営に携われたことを心より誇りに思います。また、今回の祭を見直し、後世へ受け継がせていくのも私達高専祭実行委員会の重要な役割であると自負しています。来年度の高専祭もお楽しみに。

最後に、学生の皆様、協力していただいた教職員の皆様、地域住民の皆様、音響設備でご協力頂いたカスタムミュージック様、ご来場いただいた皆様。心より厚くお礼申し上げます。そして実行委員会のみならず、本当にお疲れ様。ありがとうございます。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長
電気電子工学科4年 中島 蓮

一年前、僕は人生で初めて「実行委員」というのをしました。それは楽しくて、とてもやりがいのあるものでした。今年、僕は二年目にして体育祭実行委員長をする事になりました。正直、出世しすぎではないのかと心配でした。しかし、実行委員みんなの助けや先生方の助けもあり、今年もなんとか無事に体育祭を終える事ができました。

今年は新たな事に取り組みました。何か新競技をしようという事で話し合いの末に決まったのが、バリコレの舞台を競技にするという何とも無謀なアイデアでした。体育祭当日どうなるか心配でしたが、「バリコレース」の実現を目指す事にしました。

そして本番、バリコレースが始まると学生達はおおいに盛り上がっていました。先生方や来賓の方も存分に楽しめたのではないかと思います。そして今年は高専では初となる「女子騎馬戦」も行いました。この様な取り組みもあってか、今年は学生の参加人数が多く見られました。又、応援合戦では、今年かなり気合を入れていた学科もあった様で、完璧な演武を披露してくれました。そして最後は恒例の薄暗い中での各科対抗リレーで全競技を終えました。

僕自身、この体育祭を通していろいろな事を学べたと思います。実行委員の人達も何かしら得た物はあったはず。この経験を活かしてまた来年も体育祭を盛り上げて行きたいと思います。

最後に、体育祭を開催するにあたって協力して下さった教職員の皆様、保護者の皆様、地域住民の皆様に深く感謝いたします。そして、体育祭実行委員のみならず、本当にお疲れ様でした！！



工場見学旅行を通して

機械工学科 4 年
平山 幸一

期末試験が終了し、プレッシャーから解放された我々機械工学科は、9月26日から、四泊五日の工場見学旅行のため福岡から羽田へと旅立ちました。

初日は羽田から日光東照宮へ。世界遺産に登録されている建造物や有名な彫刻を見ることができました。

2日目は、まずコマツの小山工場で、エンジンの生産ラインを見学させていただきました。工場では、液晶ディスプレイでの行程の確認、全自動機材搬送機など生産効率をあげるためのさまざまな工夫がされていました。

その後バスでJAXAへ移動し、施設を見学。宇宙飛行士の訓練に使われる大型プール、人工衛星の通信施設などを、窓越しで見ることができました。今現在、はやぶさなどの宇宙探査機が話題になっている中、日本の宇宙開発の現場を僅かですが見ることができ非常に楽しかったです。

3日目は、ブリヂストン TODAY と コカコーライーストジャパンの見学です。ブリヂストンでは、タイヤをはじめとするいろいろな製品に、ゴムがどのように使用されているのかの説明をうけ、さらに展示してある数種類のタイヤに直に触れることができました。F1用のタイヤ、バイクレース用のタイヤなど、機械科の我々にとって興味のものばかりでした。またブリヂストンでは、尾ひれを無くしたイルカに、ゴムを使い人口尾ひれを作るなどの活動もしており、ゴムには無限大の可能性があるのだと感じました。

コカコーライーストジャパンでは、人の目で瓶の品質を見分ける作業や、缶コーヒーの大量生産されている現場を見学することができました。そして私達の期待どおり、1人1本コカコーラが配られ、コカコーラのおいしい飲み方など教えて戴きました。

4日目の自主研修では、皆東京見物を満喫したようです。

最終日の5日目は、東京電力大井火力発電所へと向かいます。

大井火力発電所では、火力発電の環境問題への取り組み、従来の発電方式（汽力発電）と、今主流になっているコンバインドサイクル発電の説明、およびそれによる熱効率の改善について説明して頂きました。実際に、発電所内の大規模な発電機関を見学することができ、ガスタービンの大きさを間近で体感できました。そして最後の見学場所であるANA機体整備工場へ。機体の大きさによって形を変えることができる足場など、機体整備の現場を見ることができました。

今回の工場見学旅行では、実際に現場で働いている方の話を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごせたと思います。今後この経験を生かし、進路を決めるときの1つの判断材料となればいいな、と思っています。



ANA 整備工場にて

工場見学旅行に参加して

電気電子工学科 4年
原口 駿平

私たち電気電子工学科は、4泊5日で関東地方へ工場見学に行きました。見学先としては、富士通川崎工場、㈱IHIマリンユナイテッド横浜工場、日産自動車横浜工場でした。

2日目は、午前には東芝科学館を見学し、午後から富士通川崎工場を見学しました。富士通では、昔のコンピューターやリレー式の自動計算機などの展示物が見ることが出来ました。また最先端の製品で手のひら静脈認証セキュリティなどの展示もありました。その中でも印象に残ったのは、実写映像を用いた電車の運転の模擬体験が出来るものです。その映像の中に西鉄天神大牟田線があり、本当に運転しているようで関東に来て地元の風景が見ることになるとは思ってもいませんでした。

4日目のIHIマリンユナイテッド横浜工場は客船から船艇などで製造している企業でその生産ラインを見せていただきました。巨大な船の部品でも、ロボットではなく人の手での製造が多かったです。

また、日産自動車横浜工場では、同じく生産ラインを見せていただきました。工場内ではロボットが結構活躍していました。ロボットは、箱のようなものに並んで入っている部品を一個一個つかんで正確な場所に設置していました。その正確さに私はとても驚かされました。また、いろいろな工夫された装置があって、ねじを3個取り出す装置や満遍なく油をぬる装置などあって、なるべく仕事をしやすい環境を追求している企業なのだと思います。

3日目の自主研修のとき渋谷のとある店でうろうろしていると、外国人から英語で話しかけられました。ゆっくり話してもらったおかげで聞き取ることは出来ました。しかし、いざ答えようと思うと何をしゃべったら良いのかわからず、結局カタコトの英単語を並べてその場を乗り切りました。そのとき、英語はちゃんと勉強しておくべきだとつくづく思いました。

今回の旅行で、仕事現場などを実際見られたので、今回のことも参考にしてこれから就職を考えたいと思います。

工場見学旅行を終えて

制御情報工学科 4年
松隈 俊大

私たち制御情報工学科は、関東地方へ工場見学に行きました。4泊5日の日程で、JAXA、富士通、NTT、三菱重工横浜製作所、JAL整備工場成田などさまざまな業種の会社を見学しました。

初日のJAXAでは、主に日本製宇宙ロケットと、宇宙開発で使われる機器・設備等を中心に見学させていただきました。日本の宇宙開発の歴史を学べる展示コーナーもあり、これまでの宇宙開発の経緯と今後の計画を知ることができました。最近話題になっている小惑星探査機「はやぶさ」、準天頂衛星「みちびき」などについても説明を受け、その技術の高さに驚きました。研究室・実験室等は時間の都合上見学することができず、少し残念でした。

2日目は富士通。「京」などのスーパーコンピューターをはじめとして、海底ケーブル事業など高度情報化社会には欠かせない、情報系の分野の一大プロジェクトを成功させてきた会社です。今回の見学では、人間の脳の錯覚体験をさせていただきました。目の錯覚だけではなく耳の錯覚なども体験でき、人間の能力の一端を感じることができました。

そして3日目は三菱重工業横浜製作所とNTTです。三菱重工はこの工場見学旅行唯一の純機械系の企業です。私たちが訪れた横浜製作所では、船舶の修理を行うドックをかかえており、見学時は海上自衛隊の護衛艦が入っていました。また、風力発電に必要な、発電機などを収容するナセルという大きな流線型の部品も製造しています。4日目の自由研修では、皆とても有意義な時間が過ごせたと思います。

工場見学旅行は、夏休み中に実施されたインターンシップとともに、就職・進学などを考えるよい機会になったと思います。



工場見学旅行を終えて

生物応用化学科 4年
水城 英子

前期期末試験を終え、私たちはひと息付く間もなく工場見学へと旅立った。帰宅した翌日が後期授業開始というハードスケジュールではあったが、4年越しの修学旅行、初めてのスーツでの団体行動、初めての飛行機など、クラスが全体的に期待・喜びで落ち着かないように感じた。

今回生物応用化学科が見学させて頂いたのは、中外製薬、資生堂（鎌倉工場）、かずさDNA研究所、エクソンモービル、日本科学未来館である。一つの見学旅行で、化学、生物両方の工場や施設を見学でき、その上、普段工場などを直接見ることがないため、とても新鮮であった。また、海ホテルや海上でのクルージング等の楽しみもあり、全体的にバラエティに富んだ旅行であった。

資生堂では、工場内を見学させて頂いたのだが、徹底した衛生管理には驚いた。また、化粧品会社で女性の従業員が多いということもあり、福利厚生が充実しているように感じた。

かずさDNA研究所ではDNAや研究所についての講義をして頂いた。また、特別に課題を出していただいたので、工場見学旅行後もDNAについて色々考える事ができ、とても有意義であった。

また、資生堂とエクソンモービルでは、高専の卒業生の方々の貴重なお話を聞かせて頂いた。卒業生の方々は、未来の自分たちの姿であるので、将来が少し現実的に感じられた。

今回の旅行では、それぞれ就職後や進学後のイメージや働くということについて、個人個人考える機会になったのでは無いかと思う。また、旅行後、何となくクラスがまとまってきたように感じた。



工場見学旅行に参加して

材料工学科 4年
柳 有紀

9月26日から5日間関東地域への工場見学旅行に行きました。

1日目はお台場の日本科学未来館へ行き、宿泊する横浜のホテルに着き、驚く程早く時間が過ぎました。

2日目は、最初にIHI マリンユナイテッド横浜工場で造船工場を見学して船や部品の大きさに、自分がとても小さく感じました。次に行った日本精工藤沢工場は、軸受のシェアが日本一と聞きました。広い敷地の中に多くの工場があって、全部回りきれないくらいでした。私が1番印象的だったのが、振動・騒音を精密に測定するために完全に音を遮断するための、防音材を敷き詰めた実験部屋でした。すごく工夫がされており印象的で、声が響かなく不思議な感じでした。

3日目は、新日鉄君津工場に行きました。授業で習うだけでは想像もつかなかった圧延の工程が見られて勉強になり、鉄製品は身近なもの多くて、興味をもてました。次に日本航空羽田整備工場へ行き、飛行機の整備の様子を見学しました。これら2社工場は、スケールがとても大きく感動しました。この日から宿泊は品川のホテルでした。

4日目は自主研修の日で、私は原宿や秋葉原に買い物に行って、夕方からディズニーランドに行きました。一日中動き回って疲れたけど、ものすごく充実した楽しい一日でした。

そして、最後の5日目には、東芝科学館に行き、ロボットに触れ合ったり、色々な実験して楽しく過ごせました。午後から飛行機に乗って、福岡へ帰りました。

充実した五日間を過ごすことができ、思い出がたくさんできました。

これも見学をさせていただいた会社の方々はもちろん、お世話になった先生方や旅行会社の方や両親やクラスみんなのおかげです。ありがとうございました。

工場見学で経験した多くのことをこれからの進路や生活に、役立てたいと思います。



第3回シンガポール交流を通して

企画主事補 国際交流担当
金城 博之

本交流は、九州・沖縄地区高専とシンガポールのポリテク3校間交流の一環として、「広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者」育成という本校教育理念に向け、多様な文化や価値観への興味・関心を高める機会を設けることを目的に、後援会の支援の下毎年実施されています。平成19年にテマセク・ポリテクニクの学生が初めて本校を訪問してから3年目を迎え、今年も学生45名、引率者2名が10月8日に本校を訪れ、学生同士の盛んな交流が行われました。

このプログラムは主に学校・授業見学と学生交流の2つの柱からなり、まず開会式での本校校長の学校説明の後、学校・授業見学を行いました。今年は2年電気電子工学科と4年生物応用化学学科の授業を視察し、技術立国日本の教育機関での授業風景に興味津々の様子でした。訪問団は機械科・電気科・航空科・経済学科・材料科・情報コミュニケーション学科などからなり、1つの学科からというわけではありません。そのため授業見学は内容を理解させるようなものではなく、日本の教育風景を視察する機会として行っています。そこで疑問に感じたことを、次の学生交流会で本校学生に質問するような流れにしています。

交流会は本校から学年や学科を問わず希望者45名の学生が参加しました。シンガポールは英語を公用語としているため本校の学生より英語力は格段に上なのですが、中華系が多いので筆談も通じます。ミーイン先生により交流が進む中、学生も次第に打ち解けあい、何とか自分の専門を説明したり、想いを伝えようと努力していました。

企業の海外進出が進む昨今、進んで意志伝達を図ろうとする姿勢は重要な資質の一つと言えます。また現在はe-mailだけでなく、フェイスブックやスカイプなど様々な通信手段があります。殆どの参加した学生が、これらを使って交流後も盛んに連絡を取り合っており、一世代前よりも英語学習への動機付けとしての交流の意義が高まっているように感じます。それ自体はきっかけであり、広い意味での相互理解は続いていると考える方が正しいのかもしれませんが。

今年は尖閣諸島沖の漁船衝突事故やロシアとの北方領土問題で外交的に大きく揺れた年です。隣国との付き合い方に日本中が憤りと共に再考を迫られた年といえるかもしれません。また不況の中、若い世代が海外へ目を向けることの難しい時代でもあります。このような我々の置かれた「現実」の認識なくしての友好は砂上の楼閣に過ぎませんが、断絶を通して友好などありえません。友好のない国際協調もまた砂上の楼閣と言えるでしょう。

「国家百年の計は教育にあり」といいます。明日の「現実」を構

築するのは学生たちであり、彼らの可能性を育むことが、今日の「現実」に生きる我々教育者の使命の一つです。若い彼らにとって、異なる価値観をもつ人々との対話を通して得られるものは貴重な経験であり、人生の糧となると信じます。時間的にも財政的にも国際交流の可能性を信じ続けることの困難な時代ですが、むしろ今の時代だからこそ、時代に流されないものを学生に提供したいと考えます。

最後になりましたが、ご支援を頂きました後援会ならびに協力していただきました教職員の皆様には厚く御礼申し上げます。

